

飯野地区地域づくり協議会 第2期地域計画  
(2024年度～2027年度)



みんなが笑顔で暮らすまち 飯野



## 目 次

1 はじめに（第2期地域計画の概要）	1
2 「第2期地域計画」の策定にあたって	2
3 飯野地域の将来像	4
4 地域づくりの基本方針と各専門部の活動方針	4
5 参考資料	
(1)飯野地区の現状	15
①地区旗・地理	15
②地域のなりたちと人口	15
③地域の主な資源	18
④住民アンケート	19
(2)組織図	20

# 1 はじめに（第2期地域計画の概要）

鈴鹿市総合計画にあわせて飯野地区が実施する第2期(2024年度～2027年度)の地域計画を提示します。

第1期の地域計画が2023年度に終了することから、当協議会では専門部から第1期の評価と反省について聞き取り調査を実施すると共に、各自治会を通じて住民の皆様のご意見を反映するためのアンケートを実施しました。

第1期の基本は、飯野地区で暮らすみんなが互いに協力し、活力があり、安心安全に楽しく生活し、笑顔で溢れるようなまちを目指すことによって、飯野地区に住んで良かった、これからもずっと住み続けたいと思うまちづくりを基本理念としており、第2期においても基本理念は継承発展してまいります。

第2期におけるまちづくりに向けての重点活動は、第1期の理念を踏襲しつつ、①防災・防犯・環境、②子育て・福祉、③文化・スポーツを3本柱とし、行政と一体となって協働で取り組みます。なお鈴鹿市が取り組む政策・事業と、当協議会が取り組む実践計画の役割に違いがありますが、諸活動の展開にあたっては、日々連携を取りつつ活動を展開します。

第2期の地域計画は、当協議会が取り組むものに限定して記述しました。なお第2期活動の特徴は、第1期の反省から、ごみ問題・空き家対策・野犬・野良猫対策等、地域の諸課題に関心を持って対応するため、新たに「環境部」としての環境委員会を設置します。

地域づくり協議会の位置づけは、飯野地区にある各種団体が地域課題を解決するために、地域づくり協議会の呼びかけで集まり、決定した内容を各々の団体が持ち帰り、各々の責任で実行する協議会組織です。つまり住民の皆様が期待する役所のような行政的な役割を有する執行機関ではなく、また事務局に常時専門スタッフが常駐する組織ではないため活動に限界があります。

しかし私たちは地域の諸課題を解決し、「飯野地区に住んで良かった」と思ってもらうために地域づくり協議会を結成したのであり、その趣旨・原点を踏まえることが極めて重要です。そこで第2期の地域計画では、事務局機能を強化することを含め、専門部の活動を機能させることを最重点に取り組むこととします。

## 2 第2期地域計画の作成にあたって

第2期地域計画の作成にあたっては、第1期の基本理念を踏襲しつつ、新たな地域課題への対応を加筆することにしました。そこで改めて、私達が目指す飯野地区ビジョンとは何か、またどのような検討課題と経過を踏まえて作成したのか、以下記述します。

### 1 第1期地域計画の概要と理念

- (1) 鈴鹿市総合計画の基本コンセプトは、「鈴鹿市に住んで良かった。これからもずっと住み続けたい」と思うまちづくりです。飯野地区における第1期のアンケート(抽出した2,486世帯)の結果は、75%が住み続けたいとの回答があり、そうは思わないが5%、わからないが20%でした。
- (2) 第1期のアンケート内容から分析すると、日常の買い物や医療機関等が近くにあり、生活の利便性から「住み続けたい」と判断している反面、バリアフリーが十分でなく、高齢者施設に対しては満足度が低い結果となっていました。また公民館等の行事やスポーツについては、回覧板等で繰り返し周知をしているため認知度は高いものの、福祉・防災を含め自治会や地域団体の諸活動については認知度が低く、広報活動を再検討する必要があります。
- (3) 地域住民のアンケートを基に、2回に分けてワークショップを開催し検討した結果、当協議会が目指すまちづくりの基本方針を決定しました。その内容は、①鈴鹿市の総合計画に連動した内容とする、②地域の特色を、「鈴鹿中央道路の沿線に広がる活力ある商店街、中央部に広がる水田地帯」と定義し、③飯野地区で暮らすみんなが互いに協力し、活力があり、安心安全に楽しく生活し、笑顔で溢れるまちをつくることを目標に、「みんなが笑顔で暮らすまち 飯野」を合言葉に活動を推進することを決定しました。
- (4) 第1期の活動は6つの専門部毎に、①課題、②宝物、③4年間の事業計画と、メリハリをつけて特に力を入れて取り組む内容を決定したのですが、活動の進捗状況は十分とは言えませんでした。  
その理由は、①コロナ禍で会合自体が持てなかったこと、②ワークショップで出された意見について、時間的余裕が無かったことから内容を十分検討せずそのまま計画案としたこと、③地域計画を作成した当時の担当者が退任し、引継ぎが十分でなかったこと、④当協議会が2020年2月に結成されたばかりで十分指導できなかったことが原因とされます。

## 2 第2期計画策定に向けての経過

- (1)第2期計画の作成にあたって、本部役員会は、①地域住民が求める施策の優先度が、役員会の求める方向性と一致しているか、②各専門部に対して第1期の評価と反省、並びに第2期に向けての課題と取り組みについての意向確認、③第1期で主体的な役割を担った本部役員からの聞き取り調査、④まちづくりの基本は、鈴鹿市と地域づくり協議会が協働作業として取り組むことから、課題別政策についての役割分担を明記する必要があると判断したところです。
- (2)自治会を通じて実施した地域住民のアンケート(500世帯)は、福祉面については、独居老人が増えつつある中での友愛訪問など、声掛けや見守りサービス・緊急時の連絡体制を望む声がある一方で、高齢者の交流の場や子ども食堂・有償ボランティアについては、まだ身近に感じていないのか強い要望は見られませんでした。ただ活動が見える化する等、身近な関心事になると急速に期待感が高まってくるものと思われます。
- (3)安心・安全については、防災等の体制づくり、登下校の見守りや防犯灯設置の優先順位が高く、また雑草処理対策や不法投棄等の地域美化・清掃活動も高い関心が寄せられました。文化・スポーツは地域の活動として一定程度認知されていることから、強い要望は見られなかったものと判断しています。
- (4)総括的に言えるのは、役員会の考え方と地域住民の求める期待感とは大きな乖離は見られませんでした。もちろんアンケートの実施枚数が500枚であること、地域活動が住民に今一つ浸透しておらず、また現状が住民の求めるレベルにどの程度達しているかわからないためか、「答えようが無い」とのコメントと合わせて「分からない」の回答が一定数あったことは今後の目標設定にあたって留意しなければなりません。
- (5)専門部からの回答は、コロナ禍であり、また役員が短期間で交代していることもあり、各専門部とも新規で掲げた重点施策の進捗状況は十分でなく、前年踏襲による活動を実践する傾向がみられました。
- 第1期で主体的な役割を担った本部役員からの聞き取り調査については、アンケート内容やワークショップの意見を踏まえ、目指すべき「思い」を大事にすること、さらに新たな方針を安易に作るのではなく、できなかった理由をしっかりと分析することが大事であるとの示唆をいただきました。

(6) 鈴鹿市に対しては、飯野地区が掲げる3本柱に相對する鈴鹿市の政策を、重点3項目として箇条書きにして明らかとするよう求めました。

鈴鹿市の回答は、①目標を達成するには、幅広い施策を総合的に組み合わせて実施するものであり、重点施策以外でも必要な施策があり省略化できない、②重点施策として予算付けするのは、市長や議会である政治家の仕事であり、新体制のもと変更もあり得ると言うものでした。(意見交換は、統一地方選挙前に実施)

(7) 2023年2月6日の本部役員会において、各専門部からの聞き取り調査や、住民アンケートで出された意見を基に、第2期地域計画についての骨太方針(方向性)を確認しました。その基本は、第1期の活動理念を踏襲しつつ飯野地区が目指すまちづくりの基本を、①防災・防犯・環境、②子育て・福祉、③文化・スポーツの三本柱とする。また新規に環境美化等の地域課題に対応するため、専門部として、「環境部」の設置も確認しました。

第2期の骨太方針は、6月11日に開催した地域づくり協議会の定期総会で承認されたことから、各専門部として次期4年間の活動計画(別紙)を検討してきたところです。

### 3 飯野地域の将来像

「みんなが笑顔で暮らすまち 飯野」

飯野地区で暮らすみんなが、互いに協力し、活力があり、安心安全で楽しく生活し、笑顔で溢れるようなまちこそが、私たちが描く飯野地域の将来像です。

### 4 地域づくりの基本目標と、専門部の活動方針

みんなが、笑顔で暮らせるまちを目指すため、地域づくり協議会の基本目標(1)～(8)と、7つの専門部の活動方針を別表において明らかにします。

#### (1) 専門部の機能強化

ア 地域づくり協議会として、第2期の活動で重視すべきことは、地域づくり協議会の呼びかけで各地域の所属団体が集まる専門部の機能強化です。

飯野地区地域づくり協議会は2020年2月に結成されましたが、第1期の活動

においてはコロナ禍でもあったことから、専門部としての活動というより、所属団体が従来から実施している活動がメインでありました。

そこで第2期の活動については、今後地域づくり協議会に求められる執行機関的な役割を担うための専門部の機能強化です。具体的には、会合すら持てなかった専門部についてはまず会議を開催し、部として何ができるのか、住民の希望にどう応えていくのか、専門部としての事務局体制を確立することが第2期の重点活動です。

イ 従来から各所属団体の垣根を越えて実施してきたイベントは、そのイベントの実施目的を考え、主となる専門部に割り当てることで、持たれあいのない事務局体制と分散してきた会計処理を一体的に処理することとします。なお主たる専門部の活動に位置づけても、各専門部間の協力体制は継続していくことは言うまでもありません。

また各専門部活動の集大成として、また交流親睦の場として、2027年度に第2回飯野まつりを総合イベントとして開催します。

## (2)社会福祉部

飯野地区が目指す重要な柱は、社会福祉活動です。「すべての人に優しい町、すべての子供に夢のある暮らし」を目指して、現在民生委員・児童委員、老人会やさぎ草の会のメンバーが、それぞれ持ち場で活動をしています。引き続き評価反省を行いつつ活動を継続します。また地域づくり協議会に期待される内容として、子供食堂、有償ボランティア活動がありますが、飯野地区として優先すべきは、サロン活動の推進、認知症対策であると考えます。これらを踏まえ第2期は地域に根づいた専門部活動を目指します。

## (3)産業振興部

「地域活性化できらめくまち」を目指します。飯野地区は、地区中央部の水田地帯を中心に、周辺を集落が取り囲んでいる環境下にあります。

第1期の産業振興部の活動として、地域環境美化の観点から「コスモス祭り」や、「わらアート・案山子」を活用したイベントを、さらには「さつま芋の栽培体験」を通じて、子供の健全育成の活動にも寄与してきました。また飯野まつりでは、地元の安心安全な農産物を周知するとともに、安価で提供し厳しい庶民の暮らしに大いに貢献したと評価をされました。第2期活動においては第1期活動の評価反省を行いつつ、より深化した活動を目指します。

#### (4)文化振興部

文化力の向上は、厳しい社会経済環境の中で、地域の皆様が交流を深め、かつともに助け合い、活力ある地域を作る背骨にあたる重要な活動です。公民館活動を中心に「みんなが様々な文化的イベントなどに気楽に参加できるまち」を目指し、引き続き人権や心の豊かさの醸成につなげていきます。同時に文化振興部として、地域の文化財を後世に残すための記録活動と、地域の皆様に地域文化を知ってもらうための広報活動にも取り組んでいきます。

#### (5)スポーツ振興部

スポーツを通じた心身の健康と地域交流は、今後一層重要視される活動であり、スポーツ振興部の果たす役割は極めて大きいものがあります。については引き続き「こどもから高齢者までスポーツを通して元気にさせるまち」を目指して体育委員会を中心に活動していきます。またスポーツ振興部としては、自治会対抗の球技イベントについて種目・参加方法について見直すとともに、自治会の体育委員と地域づくり協議会の関係者の交流を兼ねたスポーツイベントを、第2期活動では計画していくこととします。

#### (6)青少年育成部

第1期では、各所属団体と連携し、餅つき大会・すこやか教室・さつま芋栽培体験を実施してきました。第2期の活動を考えるにあたって、少子高齢化の中において飯野地区は、未来に輝く子供が比較的に多い地域であることを鑑み、地域の宝でもある子供を、家庭はもちろんのこと、「地域で見守り、安全安心な中で子どもが輝けるまち」を目指していくことが大切です。

しかし一方で、飯野地区は通学エリアとして、4つの小学校(飯野・神戸・清和・玉垣)と3つの中学校(創徳・神戸・千代崎)が絡む地域で、5つの交通安全協会と、自治会も小学校毎に4つのエリアに分かれています。第2期にあっては青少年育成部として講演会を開催するとともに、青少年育成町民会議の代表者間で、地域課題を共有しどのような活動が可能か検討することとします。

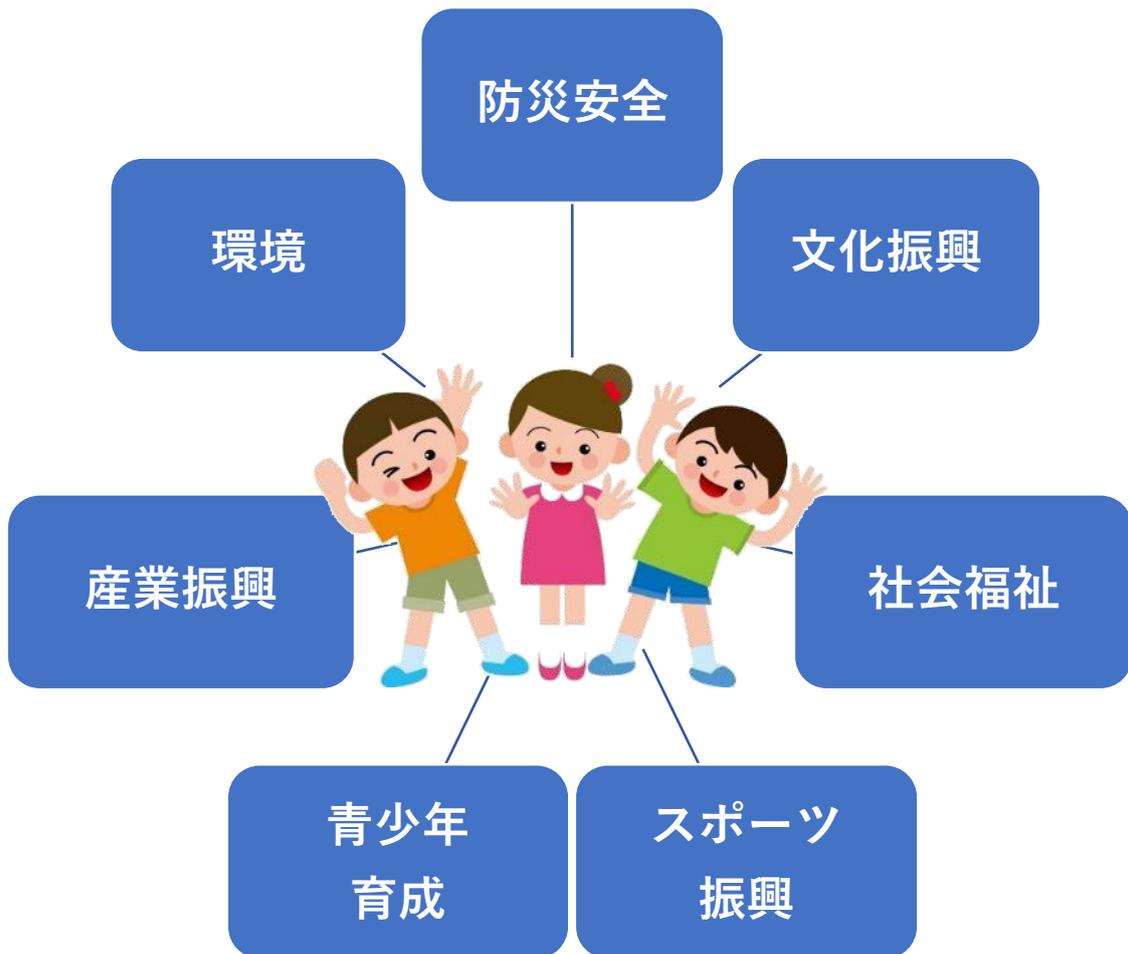
#### (7)防災安全部

「地域コミュニティーで防災安全を確保するまち」を目指して、防災安全部は飯野消防分団員を中心に活動を展開してきました。飯野地区は、地形的に自然災害が発生しにくいエリアですが、どこにでも発生しうる火災や、地震対応等の危機管理意識を啓発するため、第2期においてはコロナ禍で開催できなかった「防災フェスタ」を開催します。また消防分団員の募集や、犯罪率が一番少ないまちを目指し、引き続き「子供の見守り活動」を実施します。

## (8)環境部

地域環境の悪化は、治安面にも悪影響を及ぼします。また住民アンケートでもゴミの不法投棄や、公共地の雑草が地域美化からも問題があるとの意見を踏まえ、第2期活動の重点として「環境部」を設置します。スローガンは「気持ちよく安心して暮らせるまち」で、飯野地区自治会連合会の協力を得て、令和6年6月の定期総会で「環境委員会」を立ち上げます。

「環境部」は、まずは環境委員会が機能するよう組織づくりが第一ですが、「環境部」設置の目的は、総合的な対策を検討し、行政と一体になって啓発活動を行うことです。ごみ問題や雑草問題については第2期を前期と後期に分け、また空き家対策や野犬・野良猫対策等の地域が抱える課題については、4年間で1サイクルとして、環境部としてどこまでできるか調査検討を行います。



# 各専門部の基本方針と取り組み

## 社会福祉部

### すべての人に優しい町、すべての子供に夢のある暮らし

明るい暮らしでシニアの生き甲斐を充実。  
 子供達の見守りは互いの健康につながり将来の不安解消。  
 困った時はお互い様。お節介も大切なコミュニケーション。  
 災害や病気・怪我などで助け合う気持ちを醸成しよう。

#### 課題

民生委員の活動推進  
 民生委員間の活性化  
 主任児童委員活動  
 各種セミナー講演会  
 障がい者、子供の交流支援  
 ヤングケアラーへの支援  
 認知症徘徊者発見

#### 現在の取り組み

委員の意識改革  
 活動の見直し  
 メニューの見直し  
 事業者との連携  
 関係機関との連携  
 地域の理解

#### 4年間で特に力を入れて取り組むこと

現事業、協力事業の存続・関わり方を見直しながら  
 随時実行  
 各地域イベント支援実施・未就学児と保護者の支援  
 啓発のため積極的に推進  
 潜在者の掘り出し、場所の提供  
 潜在者の掘り出し、サービスの確立  
 訓練含め長期的視点で検討

今後取り組む事業	主体団体	方針	事業スケジュール(年度)			
			2024	2025	2026	2027
高齢者・高齢者世帯への友愛訪問	民生委員・児童委員	継続				
民生委員が月2回程度、世帯を訪問して現況の確認、希望者には月1回弁当の配達を実施。						
地区老人会グランドゴルフ大会	老人会連絡協議会	継続				
老人会会員が集い、グランドゴルフを楽しみ、会員の親睦を図る。						
要援護者登録活動	民生委員・児童委員	継続				
65歳以上の一人暮らしの方で災害時に支援を希望する場合の登録についてのサポートする。						
組織・活動の見直し	社会福祉部、民児協、老人会、さぎ草の会	継続				
負担軽減及び現状にあった組織及び活動を見直す。						
いきいきふれあいサロン	民生委員・児童委員	見直し	家族参加	未就学児	一般参加	見直し
年齢制限を撤廃し、就学前親子も含め世代間交流、様々な催しを実施、コミュニケーションを図る。						
サロン活動の推進	社会福祉部、民児協、老人会、さぎ草の会	新規	企画・トライ	実行	拡大	見直し
井戸端カフェと称して、地域の資源を活用し、定期的を開催できるようにサポートする。						
認知症徘徊対応(訓練+ソフト開発)	社会福祉部	新規	企画・トライ・IT化検討		ITツール検証	
大学、企業等機関に呼びかけ、行政の協力を取り付け、システムを構築する。						
社会的弱者への支援	社会福祉部	新規	企画	改善・実践	再構築	実践
地域の資源を活用し、必要な支援体制を構築する。						

## 産業振興部

### 地域活性化できらめくまち

地域が一体となり、緑豊かな自然を守り、地域の特性を活かし、若者からお年寄りまで、みんなの力で活気あふれる、「きらめくまち」づくりを努めます。

#### 課題

農地の保全と管理  
知識の継承  
排水問題

#### 宝物

若者が多い  
グリーンベルトがある  
商・工業施設が多い

#### 4年間で特に力を入れて取り組むこと

景観作物として花畑(コスモスやひまわり等)を作り、農地保全のため継続的な環境の維持に努め耕作放棄地をなくすことを目指す

今後取り組む事業	主体団体	方針	事業スケジュール(年度)			
			2024	2025	2026	2027
花畑に関連するイベント	産業振興部	継続	事業内容検討	花畑 花の道	花畑 花の道	→ 事業見直し
従来の活動を見直しつつ、花の栽培等による農地景観と農地保全管理の啓発活動を行う。 遊休化した農地を耕作可能な状態にするには、多大な労力が必要なため。						
農地の保全	農業委員会	継続				→
農地転用時の意見具申。 荒廃農地の所有者又は管理者に改善するよう勧める。						

## 文化振興部

### みんなが様々な文化的イベントなどに気楽に参加、参画できるまち

地域みんなが気楽に参加できるイベントを共に企画し実施することにより、イベントへの参加促進を図り、人と人のつながりを広げ、地域コミュニティをより活性化・強化します。

#### 課題

大きなイベントが少ない  
気楽に参加できない  
公民館サークルの数が少ない  
大きな広場がない  
公民館が狭い  
地区が広すぎる  
行事が多すぎる・役員不足

#### 宝物

公的施設の充実  
素晴らしい文化財  
自然が多い  
公民館や各自治会の行事が  
充実

#### 4年間で特に力を入れて取り組むこと

地域の文化財の維持保護のため映像による保存を行いたい  
また収録した内容を、公民館祭などの催し物で放映あるいは写真展示をする

今後取り組む事業	主体団体	方針	事業スケジュール(年度)			
			2024	2025	2026	2027
公民館祭	公民館運営委員会	発展	▶			
現在は、公民館でサークル活動を行っているサークル生が主に作品展示や舞台発表を行うイベント。						
公民館講座	公民館運営委員会	発展	▶			
公民館が主催する地域住民対象の多様性豊かな文化的な講座。						
公民館サークル活動	公民館運営委員会	発展	▶			
公民館運営委員会のもと住民が希望し主体性のあるサークル活動。						
文化財保護	文化振興部	発展	▶			
自治会の協力を得て文化財の維持管理と、文化財保護活動の啓発のため広報活動を行う。						

# スポーツ振興部

## 子供から高齢者までスポーツを通して元気に暮らせるまち

さまざまなスポーツを老若男女関係なく、地域みんなが楽しむことにより、健全な心身を保ち、人と人とのつながりを広げることにより、元気に暮らせるまちを目指します。

### 課題

体育委員・参加者が行事に対して負担感を感じている。

情報不足・コミュニケーション不足

各自治会との連携不足

### 宝物

行事数の充実

### 4年間で特に力を入れて取り組むこと

参加者が競う競技・大会から参加者同士が楽しめるように企画し、また新たな競技にも積極的にチャレンジして行きたい

今後取り組む事業	主体団体	方針	事業スケジュール(年度)			
			2024	2025	2026	2027
地区体育大会	スポーツ振興部	見直し	実施			
自治会対抗競技の種目及び運営方針を随時見直しつつ年1回実施する。						
地区親子ボーリング大会	体育委員会	継続				
親子を対象として、ボーリング大会を開催し、親子の親睦及び家族間の親睦を図る。						
地区グラウンドゴルフ大会	体育委員会	継続				
小学生以上を対象に、グラウンドゴルフ大会を開催し参加者の親睦を図る。						
地区ソフトバレー&ファミリーバドミントン大会	体育委員会	継続				
小学生以上を対象にし、ソフトバレーボール・バドミントン大会を開催し参加者の親睦を図る。						
わくわく体験 ニュースポーツへの協力	体育委員会	継続				
市のスポーツ推進協議会が開催する「新しいスポーツ」を体験する企画への協力。						
ラジオ体操・自治会運動会	体育委員会・各自治会	継続				
夏休みの期間に、各自治会でやっているラジオ体操や、自治会でやっている運動会への補助を行う。						
ふれあい企画	スポーツ振興部	新規	本格実施			
体育委員と自治会長等の地域づくり協議会役員の意思疎通や交流が出来る企画を行う。						

# 青少年育成部

## 地域でみんなで、安心安全な中で子どもを見守り育てる

地域が一体となり見守り、子どもが安全で安心して学び遊べるができる地域の環境を整え、次世代を担うたくましく心豊かな子どもを積極的に育成します。

### 課題

世帯間の交流が少ない  
学校と活動範囲の不整合  
インフラ整備の必要性  
遊べる場所が少ない

### 宝物

飯野地区内の子どもは多い  
近隣に商店や、市の施設が多く暮らしやすい  
歴史や自然など誇れるものが多い

### 4年間で特に力を入れて取り組むこと

会議を定例開催し、事業基盤を整える  
地域の子育て意識を高めるための講演会やシンポジウムを開く  
各学校の要望を聞き、読み聞かせなどの協力をする  
ボランティアの育成  
町民会議の発展的解消(育成部への統合)

今後取り組む事業	主体団体	方針	事業スケジュール(年度)			
			2024	2025	2026	2027
すこやか教室	青少年育成部	継続	10講座の実施 ボランティアの協力	10講座の実施 ボランティアの協力	10講座の実施 ボランティアの協力	10講座の実施 ボランティアの協力
公民館と協力し、就学前の子どもたちに、さまざまな遊びを提供し、子どもの健全な育成を目的とする。5月～2月まで月1回開催。ボランティアの協力をあおぐ。						
餅つき大会	青少年育成部	継続	公民館祭での実施	公民館祭での実施	公民館祭での実施	飯野祭りでの実施
公民館との共催行事とし、公民館祭の来場者へ無料でつくたての餅をふるまい地域の交流を図るとともに、子どもたちに餅つきを体験してもらう。						
さつまいも栽培体験	青少年育成部	継続	育成だより充実 人材確保・部内の組織化	育成だより発行強化 ボランティアの組織化	ネットの活用 イベントの運営方法見直し	イベント会場見直し 学校と共に情報発信
就学前の子どもたちを集め、さつまいもの収穫を体験してもらう。 すこやか教室の一環事業でもあるが、栽培には地域づくりの各組織に協力をもとめる。						
講演会の開催	青少年育成部	継続	年1回の開催	年1回の開催	年1回の開催	年1回の開催
子どもの健全な育成を目的とし、学校や地域が協力して育てていく環境を守るため勉強会や講演会を開く。						
小中各学校との連携	青少年育成部	新規	調査・準備	小学校に働きかけ	ボランティアの育成	読み聞かせ活動
小中学校の要望を聞き、読み聞かせボランティア等できることを実施する。						
会議の定例開催	青少年育成部	新規				
会議を定例開催し、地域の安心安全等の子育て環境について課題を共有し、対策を検討する。						

餅つき大会・さつまいも栽培体験・すこやか教室は、文化振興部・社会福祉部・産業振興部の協力を得て実施。

# 防災安全部

## 地域コミュニティで防災安全を確保するまち

災害や事件が起きたときに、住民同士が助け合う基盤を担う地域コミュニティを活性化し、地域住民の生命財産を災害から防ぎ、また犯罪などから地域住民を守ります。

### 課題

若者と地域のつながりが薄い  
 交通・道路事情が悪い  
 交通マナーが悪い  
 防犯活動が少ない  
 情報発信の方法  
 多文化共生の問題

### 宝物

子どもが多い  
 地域で子供を見守る活動

### 4年間で特に力を入れて取り組むこと

防災安全フェスタの開催  
 地域で子どもを見守る

今後取り組む事業	主体団体	方針	事業スケジュール(年度)			
			2024	2025	2026	2027
防災安全フェスタ	防災安全部	継続	研修会 フェスタ企画	研修会 フェスタ企画	第1回防災安全 フェスタ開催	振り返り・研修会 2回目企画
防災・消防・防犯・交通安全をテーマとしたフェスタを開催する。						
子供の見守り	交通安全協会・ PTA防犯委員会	継続	PTAとの連携	守る家	振り返り・発展	振り返り・発展
子どもの登下校時に、子どもを地域で見守る。また、子どもを一時的に保護する「守る家」の設置を行う。						
防犯・防火パトロール	消防分団	継続				
住民の防犯・防火に対する意識を高めるためのパトロールを実施。						
年末特別警戒	消防分団	継続				
慌ただしい年末において、より一層住民の防火意識を高めるために実施。						
消防分団員の募集活動	防災安全部	継続				
消防分団員の欠員と、団員の高齢化が見られるので年間を通して募集活動を行う。						
防災・操法・水防訓練	消防分団	継続				
災害時に敏速な対応ができるように、様々な技術向上・体力向上のための訓練を行う。						

# 環境部

## 気持ちよく安心して暮らせるまち

組織づくりと、地域環境対策等に関する啓発活動を行う。

### 課題

不法投棄が無くならない  
地域がある  
公共地の雑草で困っている  
地域がある

### 宝物

国指定天然記念物の  
金生水沼植物群落

### 4年間で特に力を入れて取り組むこと

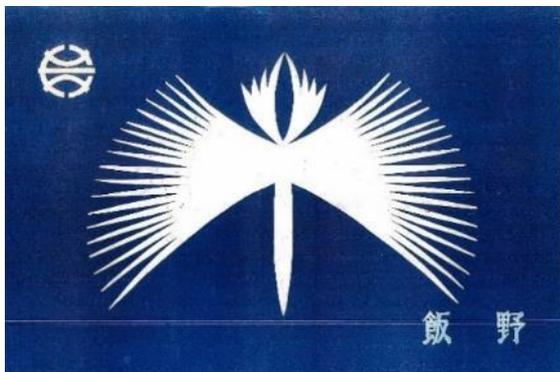
環境部を上手く機能させる組織作り  
問題を調査し、啓発活動を行う

今後取り組む事業	主体団体	方針	事業スケジュール(年度)			
			2024	2025	2026	2027
問題調査	環境部	新規	調査/検討			
地域の問題を調査し、対応を考える。						
ゴミ問題	環境部	新規	調査/検討/実行/検証	調査/検討/実行/検証		
各自治会の取り組みや問題箇所の調査を行い活動する。						
雑草問題	環境部	新規	調査/検討/実行/検証	調査/検討/実行/検証		
公共地の雑草問題を調査し各機関へ報告を行う。						
定例会議の開催	環境部	新規				
定期的に会合を行い、組織づくりを図る。						

## 5 参考資料

### (1) 飯野地区の現状

#### ① 地区旗 さぎ草

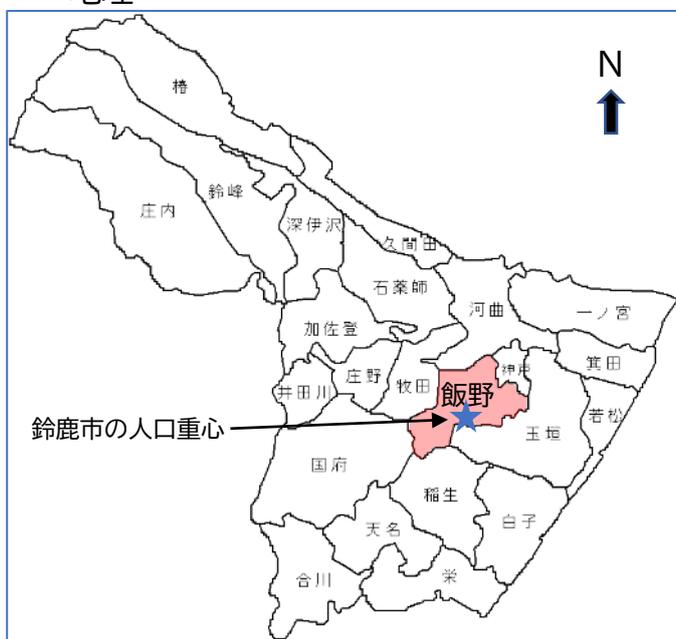


昭和40年8月15日の終戦20周年を記念し、スポーツを通じ地区内の親和と協力を図る目的で作成

飯野地区には、国の天然記念物に指定されている金生水沼沢植物群落があります。

この沼沢植物群落の中には、しらさぎの姿によく似た清楚な花を咲かせる「さぎ草」が自生しており、飯野地区の地区旗は、この「さぎ草」をモチーフとし、旗の地色は、紺碧の空に飛ぶしらさぎを想起する青としました。

#### 地理



当地区は、鈴鹿中央道路が東西方向に走り、地区中央部の水田地帯を中心に、周辺を集落が取り囲んでおり、文化会館、図書館、県合同庁舎等の行政施設や鈴鹿農協本店、鈴鹿中央病院などが立地しています。

地区内には、飯野小学校、神戸小学校、清和小学校、玉垣小学校の4つの小学校区があり、また、創徳中学校、神戸中学校、千代崎中学校の3つの中学校区があります。

鈴鹿市の人口重心は、東経136度33分51.30秒、北緯34度51分59.49秒の位置で、飯野地区内の地子町919番地(市道)付近となっております。

(人口重心とは、人口の1人1人が同じ大きさを持つと仮定して、その地域内の人口が、全体として平衡を保つことのできる点をいいます。)

— 令和2年度国勢調査より —

#### ② 地域のなりたちと人口

飯野地区の前身である飯野村は、明治22年に、西条村、寺家村、安塚村、三日市村、地子町新田の5つの村が合併して発足しました。発足時の人口等は、1,733人、326戸であります。

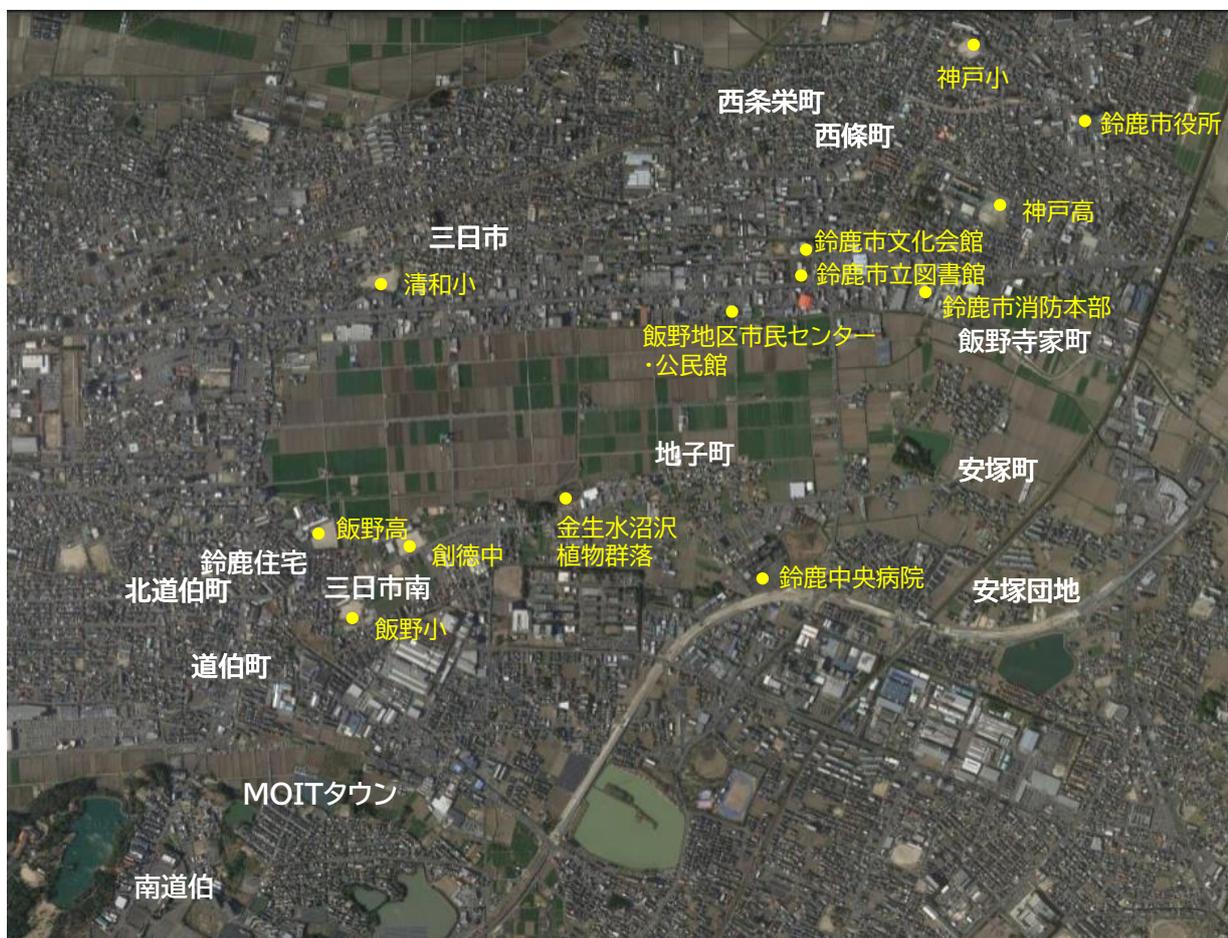
飯野村の名前の由来は、現在の三日市二丁目にあります飯野神社です。

昭和17年12月1日市制施行時には、西条町、三日市町、道伯町、地子町、安塚町、飯野寺家町の6町で行政区「飯野地区」となり、人口は1,884人となりました。

現在は、13の自治会となり、人口も15,592人となっております。

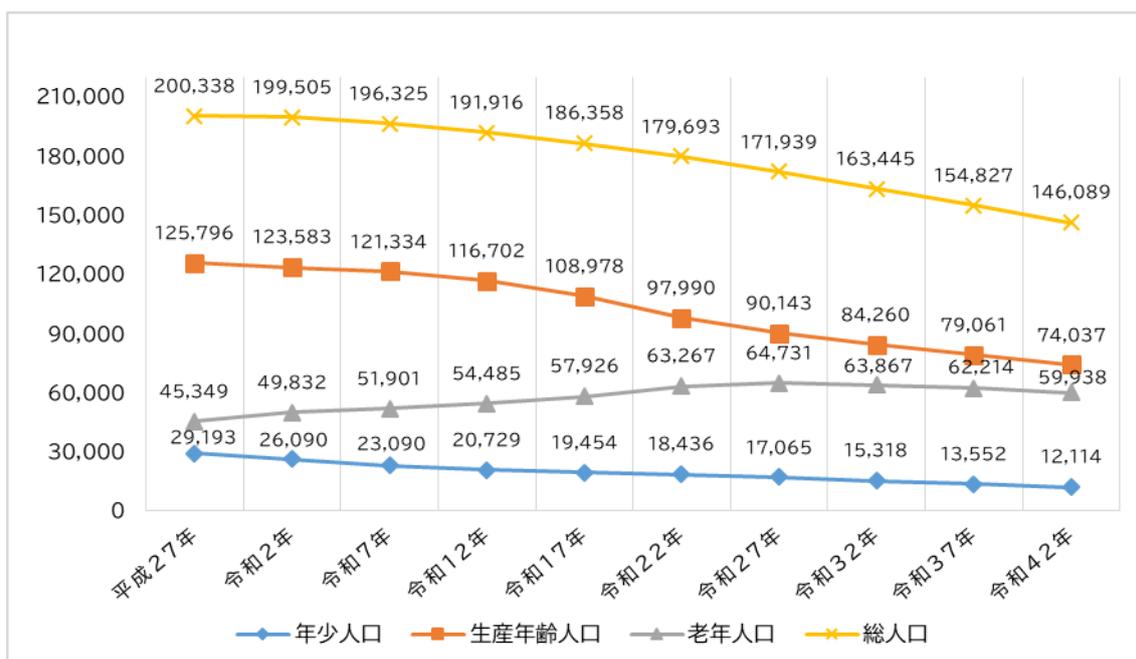
なお、13の自治会の発足は、次の表のとおりであります。

自治会名	発足年月日	備考
西條町	昭和32年2月2日	昭和41年 西条栄町分割
三日市	昭和32年1月2日	平成28年 三日市町から名称変更
道伯町	昭和32年1月5日	平成8年 南道伯分割
地子町	昭和32年1月7日	
安塚町	昭和32年1月8日	
飯野寺家町	昭和32年1月3日	
鈴鹿住宅	昭和32年2月1日	
北道伯町	昭和32年2月10日	
西条栄町	昭和41年1月25日	西條町から分割発足
三日市南	昭和61年1月1日	
南道伯	平成8年9月1日	平成8年 道伯町から分割
安塚団地	昭和52年5月10日	
MOITタウン	平成28年4月1日	



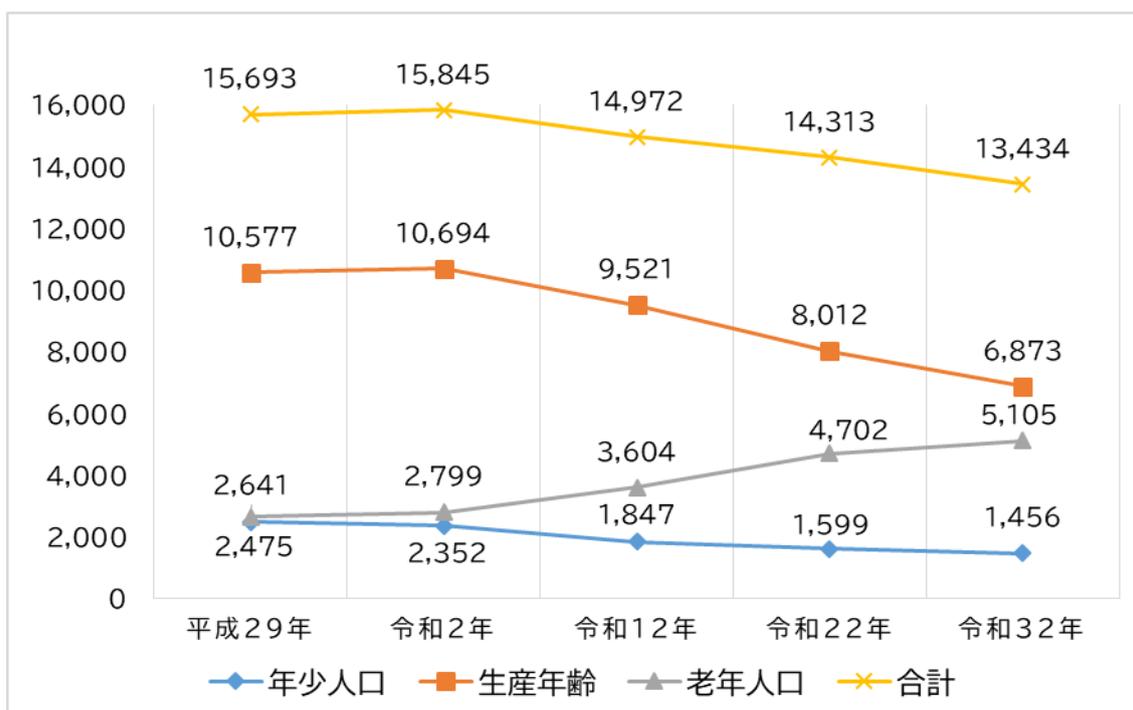
## ○人口推計

### 市全体



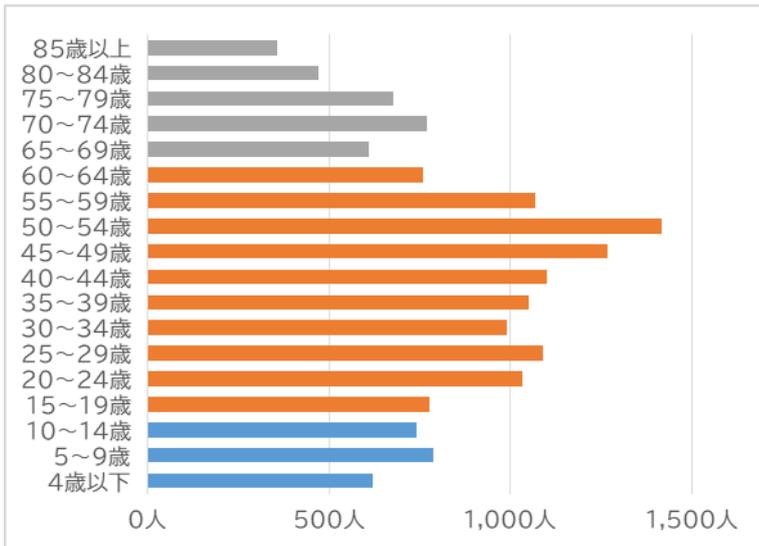
※人口推計(市全体)【出典元:鈴鹿市人口ビジョン(改定版)令和2年3月】

### 飯野地区

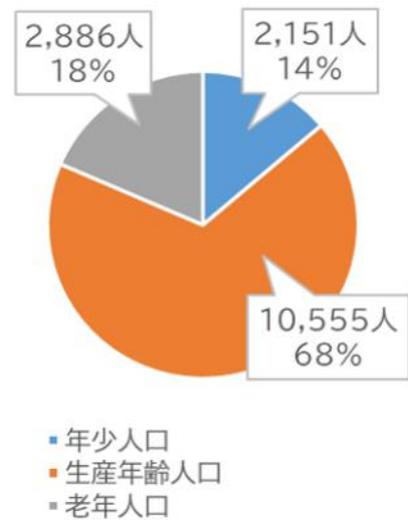


※人口推計(飯野地区)【全国小地域別人口推計システム(作成者 青山学院大学 井上孝氏)】

## 飯野地区の人口構成



人口構造ピラミッド(飯野地区)【令和5年9月末時点】



人口構造円グラフ(飯野地区)【令和5年9月末時点】

○ 人口 15,592人 【令和5年9月末時点】

○ 世帯数 7,630世帯 【令和5年2月末時点】

### ③ 地域の主な資源 (文化財等一覧)

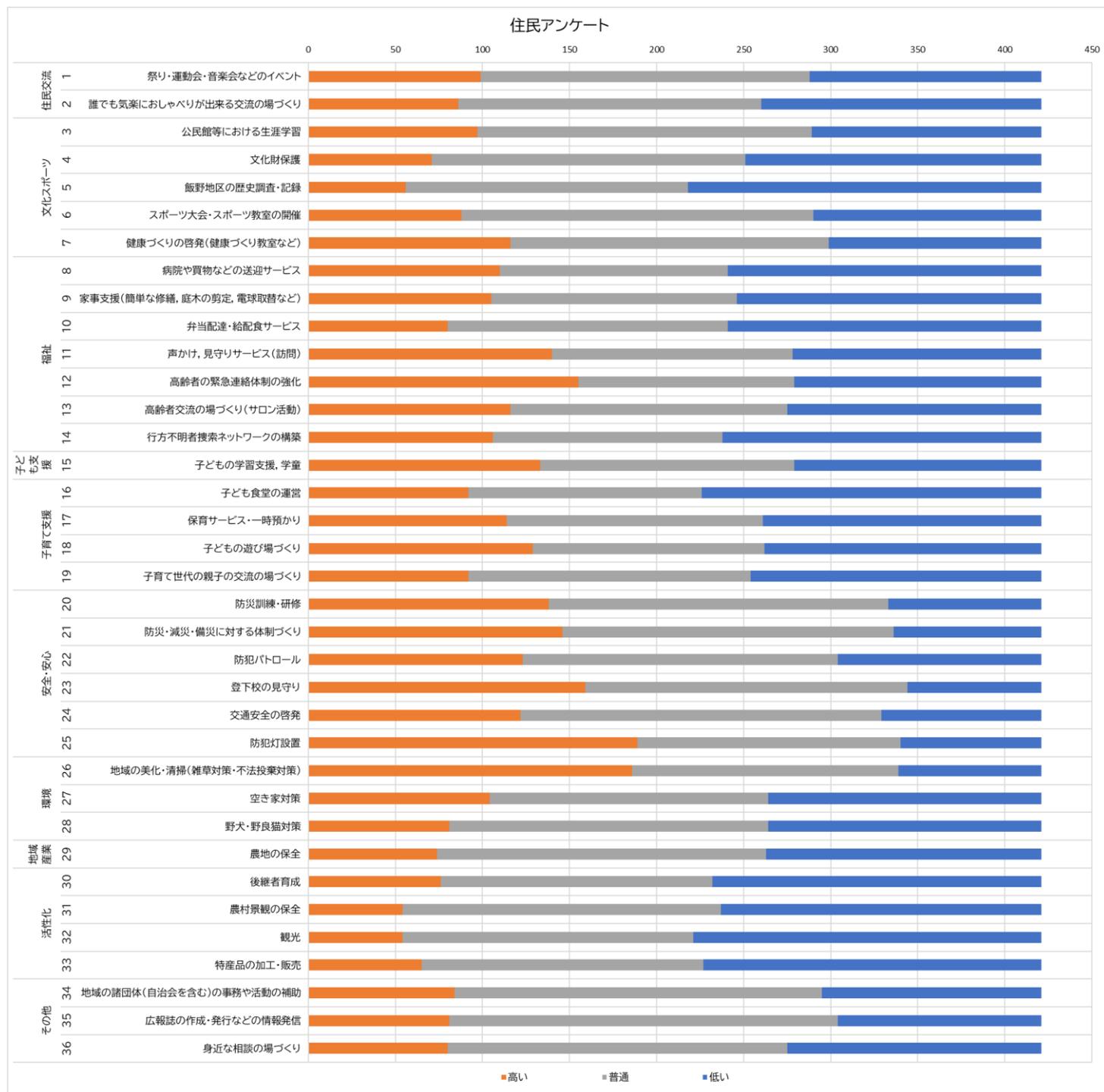
名称	概要	所在地	備考
木造善然上人座像	写実的な彫刻、鎌倉時代の作	三日市二丁目	国指定重要文化財
金生水沼沢植物群落	さぎ草・コモウセンゴケ・ノハナショウブ等500種が混生	地子町・西條町	国指定天然記念物
オンナイ念仏会	顕智上人の命日8月4日に如来寺、太子寺などで念仏	三日市二丁目	県指定無形民俗文化財
木造阿弥陀如来立像	檜の寄木造り、平安後期の作	三日市二丁目	市指定有形文化財
千手観音立像	深藕寺観音堂の本尊、一木造り、平安時代後期の作	飯野寺家町	市指定有形文化財
沢城址	約650年前、関氏の長男盛澄が築いた城址	飯野寺家町	平成4年11月碑を建立

#### ④ 住民の意識と地域の課題

##### アンケート調査の結果と分析

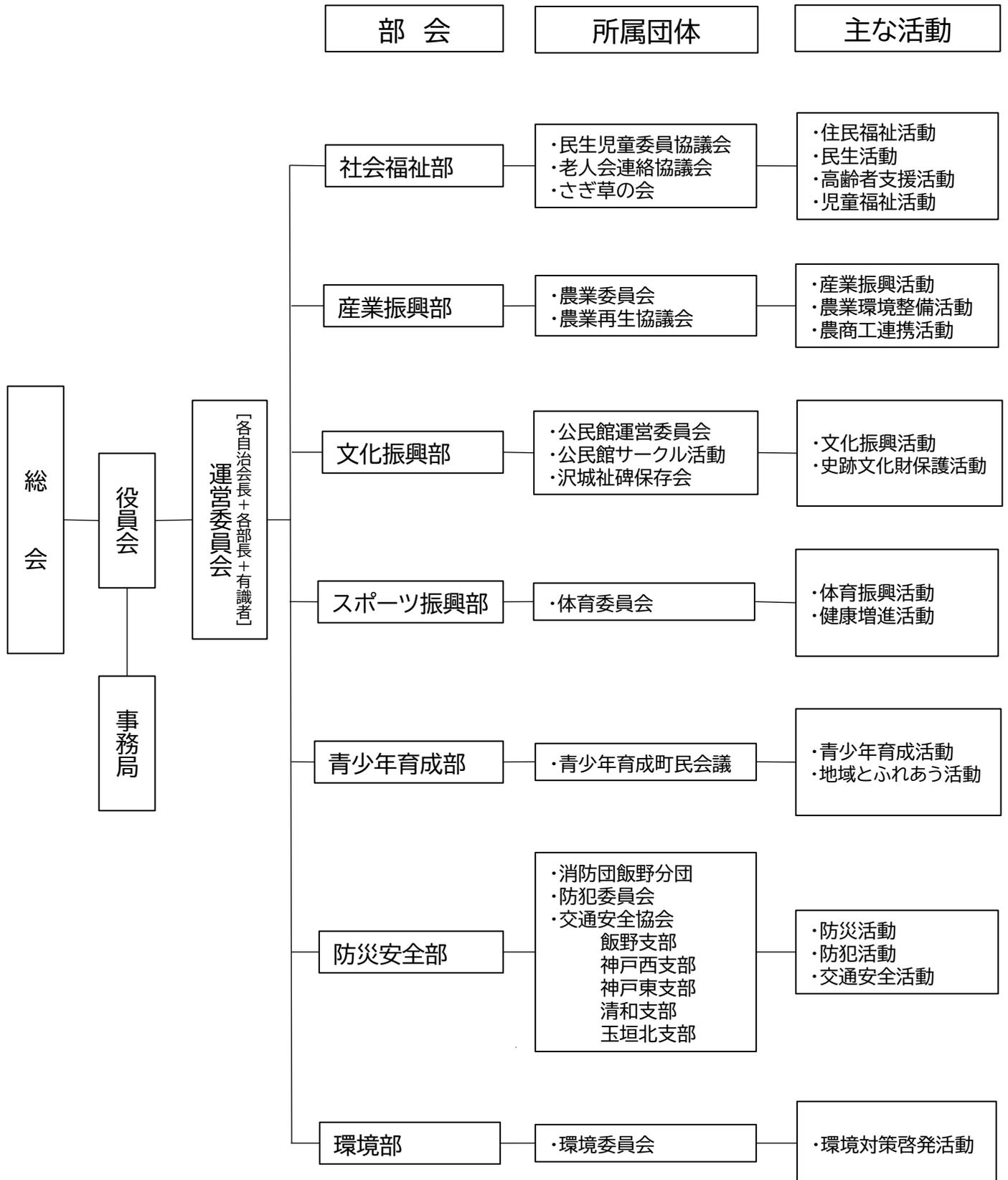
令和5年2月に飯野地区の住民にアンケート調査を実施 421世帯から回答をいただきました。

飯野地区地域づくり協議会が取り組むべき事業について、その優先度の高いものを教えてください。



防犯灯の設置や雑草対策等の安心・安全、環境や福祉に関する項目が高いようです。飯野地区の歴史や景観を後世に伝える保全活動や地震に備えるための防災訓練を希望する声もありました。また、高齢者の孤立問題に取り組んで欲しいとのご意見もありました。

## (2) 飯野地区地域づくり協議会 組織図



飯野地区地域づくり協議会  
— 第2期地域計画 —

2024年3月

編集・発行 飯野地区地域づくり協議会